

# 障害を知り、

## サポートの輪を広げる

### 「障害理解サポーター養成研修を開始



聴覚障害のある方と、文字や絵で表したボードを使っての対話



▶仙台市障害理解促進キャラクター「ココロ」

差別をなくし障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例」を施行。障害のある方の生活のしづらさを取り除くための取り組みを進めています。

### 障害のある方から直接学ぶ

その一環として始めたのが、障害のある方が講師となり、企業や町内会等のさまざまな団体などを対象に対話やグループワークを行う「障害理解サポーター（ココロ

ン・サポーター）養成研修」。

障害のある方が日常生活の中で妨げとを感じる「社会的障壁」を知り、困りごとを取り除くためのお手伝いの仕方を参加者に身に付けてもらいます。障害のある方が肌で感じる社会の空気や困りごとを、実体験を交えながら聞くことができ、研修で学んだことは、接客や営業活動などに生かしたり、地域



▲昨年の試行研修の参加者からは、「自社のサービスに不足していることを考えるきっかけになった」という声も

での支援につながりたりしていくことができます。

### まずは「知る」ことから

日常生活のさまざまな場面で見ている障害のある方に出会ったとき、自分にできることや必要な配慮が分かっていることが、困りごとを取り除く手助けができます。

障害のある方もない方も、共に支え合いながら安心して暮らせるよう、自分にできることや障害について「知る」ことから始め、障害理解の輪を広げていきましょう。

### 障害理解サポーター（ココロ）ン・サポーター）養成研修

●車いす・白杖体験などの組み合わせも可能です ●研修を希望する団体は、お問い合わせください 問仙台市ボランティアセンター ☎262・7294、FAX 216・0140

### 障害理解を深めるために

障害のある方の困りごとや必要な配慮を紹介したリーフレットや、差別と感じたことや配慮があつて助かったことをまとめた事例集を、各区障害高齢課等で配布しています。市ホームページからもご覧いただけます。



### 誰もが安心して暮らせるまちに

障害のある方が暮らしの中で感じる「生活のしづらさ」は、心身の障害によるものだけではなく、周囲の誤解や偏見、障害への理解が不十分なままつくられた制度や環境も、原因の一つとなっています。誰もが安心して暮らせるまちをつくるため、市では、平成28年4月に「仙台市障害を理由とする

### 対話から障害理解を始めましょう

研修の講師にお話を伺いました



NPO法人仙台バリアフリーツアーセンター 理事長・伊藤清市さん

仙台は、昭和40年代に車いす使用者と支援者等による「生活圏拡張運動」が起こり、全国初の「身体障害者モデル都市」に指定された地で、福祉のまちづくり発祥の地といわれています。

40年以上がたち、建物などのバリアフリー化や、「とっておきの音楽祭」開催など「心のバリアフリー」も進んできました。差別解消法や市の条例ができ、「合理的な配慮の提供」が定められたことは大きな一歩である一方、身近に障害のある人がいないため、その提供方法が分からないという方も多いと思います。私たちが何かしたいと示したとき、できないと決めつけず、まずは私たちの声をよく聞いてください。一緒に話し合うことでお互いを知ることができ、解決方法がみえてきます。研修を通して、対話の重要性を伝えていきたいです。

先輩方が市民を巻き込み築き上げてきたこのまちは、障害理解を進める土壌があります。障害のある人が当たり前のように暮らせるような仙台を目指し、私も力を尽くしていきたいと思っています。

この特集に関するお問い合わせは、障害企画課 ☎214・8163、FAX223・3573